

第1号議案

令和5年度東石松自治区事業結果報告

全期（令和5年4月～令和6年3月）

令和5年度東石松区自治活動の一年間が過ぎようとしています。

過去の3年間新型コロナウイルス感染症対策として自治活動を自粛することとなった。

地区の伝統行事や催事が中止又は規模縮小になり合わせて少子高齢化による後継者

不足が深刻化する中、地区の伝統行事を次の時代にまで継承していくこと。今年度は

新型コロナウイルス感染症が、5類感染症への移行となりインフルエンザ対応になっ

たので、東石松自治区の伝統行事や催事を感染症対策を取り実行することとしました。

催事については、3年間のブランクがありましたので伝統行事を熟知されている

諸先輩方の力をおかりして実行委員会を立ち上げて、東石松自治区伝統行事継承者を

増やしていくこととしました。

実行委員会は、「東石松区合同慰霊祭・供養盆踊り」「東石松自治区敬老会」を立上

げて行事を実行しました。

「東石松区合同慰霊祭・供養盆踊り」は、実行委員の皆さんと打合せを行い、資材等

準備・会場設営・口説き、合いの手、太鼓奏者・会場撤去、片付が段取り良くできま

した。実行委員の皆さん、助言くださった経験者の皆さん良い催事が開催できました。

第55回「ゆふいん盆地まつり」の行列に三役で参加したが集合時間・自治委員参加

者の人数等疑問あり。行列の統制に疑問あり。推進委員会の段取りに疑問あり。

湯布院町供養盆踊り大会に、東石松区45名参加しました。まつり推進委員会の方が

ら東石松区踊り子の連が整然と踊っていた。一番良かったと感想をいただきました。

東石松区盆踊り保存会の日頃の稽古、供養盆踊り自治区民練習会8/10・8/11実施

東石松自治区供養盆踊り8/13、70名参加（子供の参加あり）。東石松自治区民の行事

（財産）である供養盆踊りの伝統を次の世代へつなぐ一つとなったと思います。

東石松自治区民の皆さん、盆踊り保存会の皆さん、実行委員会の皆さん良かったです。

伝統をつなぐためにも資材（物品）整理・監理が必要です。いる・いない、倉庫の

整理整頓を実施（第三公民館）しました。必要な物は早めに準備する。

湯布院町供養盆踊り大会については、少々がっかりしました。ゆふいん盆地まつりと

名打って推進委員会（市長・祭り推進委員長）を立上げ観光ありきの供養盆踊り大会

は、疑問あり。推進委員会の連携体制がない。踊り子（連）の参加が少ないので輪が

整わない。配置図まで製作して担当者は誰か。会場変更もありかも。

春の湯布院温泉まつり・ゆふいん盆地まつり等、観光客ありきの催事を行うとするな

ら、地区民が恥をかかない観光客が感動する催事を。でなければやめた方がよい。

担当者は関係者と連携を取り失敗があっても一生懸命に努力して頑張ること。

東石松自治区敬老会については実行委員会で検討の結果、新型コロナウイルス感染症

拡大防止のため、催事は行わず、9/17に記念品をお配りいたしました。

第1回令和5年度東石松自治区防災訓練を実施しました。自治区防災訓練は湯布院町

では、初めてです。自治区民より自分たちの自治区は自分たちで守る。東石松自治区

自主防災会組織を立ち上げました。まず第一歩ですが自治区民の皆さん防災意識が、

出来たと思います。今回の自治区民の参加者は74名でした。（目標は100人の参加）

災害は 明日かも 1年後かも 5年後かもわかりません。その時慌てないことが、必要です。自治区民集まって、互いに協力しながら、防災活動に組織的に取り組み、災害に強い東石松自治区にしてゆく。防災活動には、自助・共助・公助があります。

まず自分が安全確保する。そして近隣自治区民で共に高齢者、行動要支援者の安全の確保を援助する。避難所の確保、避難所用物品の確保等公共機関が援助。

それぞれ立場はあります。共に助け合い東石松自治区を守る。

天満社祭典は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として役員のみでの参加で実施。

次年度からの祭典は東石松自治区民の全員参加の催事が望ましい。

懸案でありました天満社の参道整備が出来ました。材料を調達して役員・有志で、作業を行い参拝しやすい環境と成りました。自治区民の皆さん参拝してください。

年末には天満社参道入り口に役員・有志で門松を作製して飾りました。

大晦日に、天満社境内にて役員・有志で参拝者へ、ぜんざいをふるまった。

雨もようで参拝者が、少なかった。

東石松自治区役員会は3回開催しました。特に大きな問題は、ありませんでした。

公民館を使用して、いきいきサロン・盆踊り稽古等、自治区民のふれあいができた。

令和5年度東石松自治区事業計画の具体的な取組は概ねできたと思います。

しかしながら3年間の新型コロナウイルス感染症対策で行事の中止。少子高齢化の中。

自治活動の難しさを痛感しています。今後自治活動をどうするか、危機感をもって、

早期検討が必要と思います。自治会参加世帯が、50%をきる状況。高齢化が進み、
行事に参加が難しい。生産年齢者はまず仕事。自分の事でいっぱい、自治活動は後。
5年もすると、東石松自治区の伝統行事や催事の継承。そして自治区自体の運営。
役員改選・選出。難しくなると思われます。対策が必要と考えます。
自治区民・役員・諸係皆さんで安全で住みよい楽しい東石松自治区にしましょう。